

# 探求心を持って、 世界に目を向けよう

日本を含め世界がグローバル化する今、より広い視野を持ち、積極的に行動できる人材が一層求められている。これからの社会を担う世代に、尾木直樹さんがエールを送る。

## まず知ることから始めよう

十代の頃はみな正義感が強く、自分に正直に生きたいと思っています。そんなとき世界に目を向け、貧困や男女格差、教育機会の不平等などを知ったり、一本の注射で助かる命が見過ごされている現実に直面したりすると、ものすごいパワーが生まれるのです。若いみなさんが自分にできることは何かを考え行動することは、人々や社会のために貢献し、自分自身を豊かにすることにもつながるのです。

新しい学習指導要領では、みなさんの「生きる力」をより一層育むことを目指しており、世界的にはさらに一段進めて「生きのびる力」が求められています。

もちろん学びの場は学校に限りません。中高生が福島県で復興ボランティアに参加する取り組みも広がっていて、現地から帰ってきた生徒は大きな成長を見せています。貴重な経験による本物の学びを通し、単なる支援者ではなく自分たちも当事者として力を尽くしたいと考えるようになるのです。

## アクティブに生きていこう

今後、みなさんがさまざまな力を身につける中で、異なる文化・背景を持つ他者と協働し、答えがひとつではない課題に取り組む力はより重要になります。

今、世界の動きはインターネットを介してリアルタ



写真提供：久野武志/JICA

イムで知ることができます。しかし、みなさんには自分の足で歩き、自分の目で見たいと思います。現場を知ることで、開発途上国の課題も「同情」ではなく、「深い愛情」を持って見られるようになるのではないのでしょうか。

そして、アクションを起こすきっかけとして、JICAのエッセイコンテストはとても良い機会になると思います。ぜひ、自分にできることは何か常に考え、大いなる探求心を持ってチャレンジしてみてください。

教育評論家／法政大学特任教授  
JICA国際協力中学生・高校生  
エッセイコンテスト  
中学生の部 審査員長

## 尾木直樹さん

中学・高校で22年間、子どもが主役の創造的教育を実践。大学でも22年間教壇に立つ。臨床教育研究所「虹」所長としても活躍中



## 受賞者からのメッセージ

### 一步、踏み出してみませんか

2016年度 JICA 理事長賞受賞 <sup>なつめ</sup> 脇 捺夢さん (現・滋賀県立守山高校一年)

エッセイコンテストへの応募は、私の人生を大きく変えました！書くことで自分を見直すことができ、目に見える世界が広がりました。

副賞のモンゴル研修では、日本との深い関係や雄大な自然を肌で感じると同時に、貧富の差が生み出す社会問題を実際に見聞きし、より身近に感じました。現代では、インターネットで世界中を知ることができず。しかし現地を訪れてみると、画面からは知ることのできない文化の違いや人々の日々の営みを体験することができ、日本での当たり前の概念が崩れるほど刺激を受けました。

帰国後、学校の授業ではモンゴルで起きている社会問題の解決策を学年全員で考え、現地の JICA 事務所に提言することもできました。

貴重な経験とたくさんのお出会いは、私の一生の宝物です。世界の問題を一人一人が知り周りに伝えることで、世界は少しずつ良くなっていくと思います。まずは、エッセイを書くことから、国際協力の一步を踏み出してみませんか。



モンゴル研修(右から2番目が脇さん)

## 作品募集中

言葉にすれば、世界を動かす力になる。

### JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2018

テーマ 世界の幸せのために私たちができること

募集締切 9月11日(火)当日消印有効

問合せ先 JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト全国運営事務局(青年海外協力協会内)

TEL:0265-98-0445 (9:30~17:45、土日祝祭日除く)

詳しくはWEBで

JICAエッセイコンテスト

検索

広告

企画・制作 産経新聞社メディア営業局